

《教育目標》

- 自らの将来を切り拓く
- 行動に責任をもつ
- 心豊かに、他者と協働する

《校訓》

- 開拓
- 自律
- 協和

1 スクールミッションと3つのスクールポリシー

「未来を描け、自分を創れ」をスローガンに、「自分で考え、行動できる人」を育成します。「自らの将来を切り拓く」・「自らの責任で判断し行動する」・「心豊かに他者と協働する」を教育目標とし、本校の教育活動の3本柱である「授業・行事・探究」を通じて、本校生徒の活力・人間力をさらに向上させます。

(1) グラデュエーションポリシー

3年間の継続的な指導により、自己肯定力、コミュニケーション能力、挑戦する心と探究心等を身に付けさせ、人間力を向上させる。

(2) カリキュラムポリシー

基礎学力の定着をめざし、習熟度、少人数授業等きめ細かい指導を行う。ICT機器を活用した授業やアクティブラーニングを積極的に取り入れ、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」について、生徒の変容・成長を適切に把握するよう工夫する。

(3) アドミッションポリシー

自分の強みを認識し進路を切り拓くため、目標をもって学習や特別活動等に積極的に取り組む生徒の入学を期待する。

2 中期目標と方策

(1) 中期目標

- ①生徒に学力を確実に身に付けさせる。基礎・基本的な知識の習得及び発展的な学力を伸長する。
- ②学習指導、生活指導、進路指導の三位一体で計画的に実践する。進路目標に向かって生徒の可能性を最大限伸張する。
- ③新学習指導要領の教育内容を研究し、充実させる。
- ④学習と部活動を両立できる生徒の育成を図る。学習と部活動の両輪により社会人としての実践力を身に付けさせる。
- ⑤一人1台端末を有効に活用し、個別最適な学びと協働的な学びが実現できるよう研究する。
- ⑥生徒の心身の健康づくりを推進し、心と身体の健康を目指すとともに、他者に対する思いやりと情緒豊かな心を培わせ、健全な育成を図る。

(2) 方策

①学習指導・進路指導

新学習指導要領に基づく「カリキュラム・マネジメント」の確立を通して、主体的・対話的で深い学びを充実させる。「わかる授業」「魅力ある授業」を実践する。

②進路指導

3年間の計画的かつ系統的な進路指導により確実なキャリア教育を図る。キャリア教育を通して社会人を育てる。

③生活指導

基本的生活習慣（時間厳守、身だしなみ、挨拶の励行、登下校マナー）を確立させる。

④部活動・特別活動

本校の部活動の指針に基づく活動内容の充実及び部活動の加入率の向上を図るとともに、学校行事の活性化及び学校行事を通しての人間力の向上を図る。

⑤健康づくり

心身の健康づくりのための組織的・計画的な取り組みを実践する。

⑥広報・募集活動

学校見学会及び学校説明会、中学校訪問、ホーム・ページの活用等、本校の情報発信に努める。

⑦学校経営・組織体制

企画調整会議の運営力の向上を図り、組織的な取り組みの実践による学校経営計画を実現する。

3 今年度の教育活動の取組目標と方策

(1) 学習指導

ア 各教科がスクールポリシーに基づいて「確かな学力」を身に付けさせる。習熟度別少人数授業（数）、少人数授業（国、理、英、家）、多展開授業（体）を実施する。東京都教育ビジョン(第4次)及び「東京の未来」戦略等に基づき、アクティブラーニング、ICT機器の活用等デジタル技術を積極的に活用する。「東京グローバル人材育成指針」に基づき、グローバル人材育成に向けた使える英語力を強化するため、JET・ALTを効果的に活用する。海外学校間交流等に取り組み、国際感覚を醸成する。

・「朝学習の充実、生徒の実態に即した目標の設定。放課後や長期休業中の講習・補習の実施。

イ 家庭学習を習慣化する取組みと指導。各種の検定に挑戦させる取組みと指導。

・週末課題の実施。オンラインによる学習支援サービスを活用する。チャレンジ精神を培わせる指導を実践する。

ウ 授業規律の確立と徹底により、規範意識の醸成を図る。授業を通して集中力や授業への取組む姿勢を向上させる。

・生徒の始業前着席と教員の始業時間及び終業時間厳守を図り、50分の授業を大切にす。

エ 学力向上及び検定試験対応のための平日の放課後補習や個別指導の実施。

・「学力向上研究校」の指定を受け、定期的な学力分析を実施する。教科及び学年等と連携を図り、定期考査前の学び直し等、個に応じた指導の推進を図る。

オ 「人間と社会」の体験学習を充実させ、社会の一員であることを認識させるとともに奉仕の精神を培わせる。

・地域及び校内の清掃活動の実施。地域の福祉施設へのボランティアの実施。町内会へのボランティアの参加。

カ 「総合的な探究の時間」等を活用し、教科横断的な知識やデータ分析力、論理的思考やプレゼンテーション能力の向上を図る。

・卒業課題の充実。「得意な才能を伸ばす教育」を推進する。外部人材を活用し、個に応じたきめ細かな指導を充実させる。

カ 図書委員会の活動を活性化させるとともに、生徒の読書活動を促進する。

・ビブリオバトルの推進。図書館の利用促進。

(2) 進路指導

ア 3年間の計画的な進路指導（1年：調査、2年：体験、3年：実現）により、希望進路の実現を図る。

大学進学者には一般受験に挑戦させる。職業観、勤労観の育成を図るとともに自己発見・自己実現に繋げ、進路選択の能力を向上させる。

・1年：職業リサーチ、外部講師の講演会の実施。

・2年：進路説明会、外部講師の講演会、体験授業、上級学校訪問の実施。

・3年：教科担当者及び担任、進路指導部が緊密に連携をとり、面談や補習、個別指導を実施する。

・全学年：キャリア講演会、外部講師による進路学習の実施。

(3) 生活指導

ア 「都立高校生活指導指針」に基づき、身に付く確実な生活指導を行う。毎朝の校門での生活指導、安全教育指導を行う。

・教職員による毎日の遅刻防止、身だしなみ、挨拶、正しい自転車の乗り方（事故をゼロにする）等の指導を行う。

イ 集団での指導を通して集団の一員としての自覚を養い、規範意識や協調性を培わせる。盗難をゼロにする。

ウ 思いやりの心を育ませるとともに日頃より生徒の観察を行い、いじめの未然防止、早期発見・早期対応に努める。

・「自殺対策基本法」、「自殺総合対策大綱」に基づき、生徒の自殺対策に資する教育に取り組む。

・いじめ防止アンケートを年間に3回実施する。また、家庭やスクールカウンセラー等と密に連携する。

(4) 特別活動・部活動

ア 道徳教育の全体計画やHR年間計画に基づく指導により、学校行事（文化祭、体育祭、合唱祭）に主体的に取り組ませ、心身を鍛え、向上心、責任感、協調性、コミュニケーション力を身に付け、好ましい人間関係を育てる。

・高槻祭（文化祭）、体育祭、合唱祭等の行事に積極的にかつ主体的に参加させる。

イ 生徒会や委員会活動の充実を図ることにより、生徒が主体となって活動する機会を増やし、生徒一人ひとりが主役になれるよう支援する。

・外部人材を活用し、活動を支援する。生徒の発想を活かす指導、活躍できる場や機会を意図的・計画的に設定する。

ウ スポーツや文化等の活動に親しむ機会を確保し、部活動の活性化を進める。

・部活動指導員の活用を促進し、効率的な活動を確立させる。

(5) 健康づくり

ア 「TOKYO ACTIVE PLAN for students」を基に、組織的に体力テストを実施し、生徒の体力の向上を図る。

イ 「東京都特別支援教育推進計画(第二期)第二次計画」に基づき障害の状態や教育ニーズに応じた支援・指導を行う。

ウ 教育相談を充実させ、生徒の心のケアに努める。また、特別に支援が必要な生徒には組織的に対応する。

エ 食育を実践するとともにアレルギー対応を教職員で連携して行う。

(6) 広報・募集活動

ア 学校見学会、学校説明会、中学校訪問、部活動の体験入部等を実施し、本校を志望する受検生を多く獲得する。教職員が全体制で本校の特色や魅力を効果的に発信する。

イ ホーム・ページや学校紹介動画を積極的に活用し、量と質の両面からPRを強化する。

(7) 学校経営・組織体制

ア 地域及び近隣校との交流による地域に根ざした学校を目指す。

イ 企画調整会議、職員会議、各委員会、朝の打合せ等の合理的で効果的な運営を実践する。

ウ 若手教員の育成を図り、学校の活性化（授業改善、生徒指導力等）に繋げる。

エ 「働き方改革推進プラン」に基づき、各種会議の上限時間を設定する、定時退庁を推奨する等、ライフワークバランスの実現を図ることにより、教職員が心身ともに健康で活力のある職場環境とする。

オ 行政系職員と教員との連携を密にし、経営企画室の学校経営参画をさらに促進する。

カ 体罰、不適切な指導、暴言等の一掃に向けて、服務事故防止研修等あらゆる機会を捉えて服務事故防止に努める。